

情勢報告

ブロッコリー栽培結果報告会～東洋町野根地区より～



報告会より

2月25日に、ブロッコリー生産者とJA等関係機関は、地域の有望品目として試作したブロッコリー栽培（3戸25a）の結果をJA土佐あき野根支部稲作部会（11人出席）に報告した。

8月中旬播種で12月の出荷となったが、施肥ムラによる生育格差、収穫遅れ等の問題が重なり目標の約7割程度の出荷量（約900kg/10a）となった。

報告後に生産者や部会員から害虫による被害、草引きの労力、改良田の排水性の問題などについて質疑や意見等が交わされた。

今回実施した3人の他に数名が次作の栽培を希望しており、振興センターは、残された課題に対応しながら、ブロッコリーの生産振興に向けて支援していく。

来作の「土佐鷹」面積拡大のため、各地区で説明会を開催



芸西地区での説明会

3月9日から安芸地域の各地区（7ヶ所）で土佐鷹の面積拡大のため、土佐鷹推進説明会を行った。購入苗の注文締め切りが3月までということでこの時期に説明会を行うこととなった。

説明会は133名の生産者の参加があり、園芸連やJAは「土佐鷹」の契約販売などの取り組み状況や「土佐鷹」との単価比較、来作の目標面積などについて、また、振興センターは「土佐鷹」の品種特性や栽培での取り組みについて、関係機関が役割分担を行い説明を行った。

生産者からは「土佐鷹」の収量性や台木との相性、種苗の取り扱いや種苗センターの苗質についてなどの質問があった。また生産者からわかりやすい説明や資料だった、単価差があるのであれば変えてみようかななどの意見が聞かれた。

土佐あき地域園芸戦略推進会議作業部会のGAP推進チームが立ち上がる



3月11日に各集出荷場責任者、園芸連、農協、振興センターで構成するGAP推進チームが立ち上がった。GAPとは、食品の安全確保などへ向けた適切な農業生産を実施するための管理のポイントを整理し、それを実践・記録する取り組み。

会議では、従来の県版のチェックシート（導入編）から地域の実情にあった項目を取り入れた地域版のチェックシートを作成し取り組んでいくことなどが決定され、各項目毎に年間活動計画が作成された。

振興センターとしては、チェックシート内容の検討や生産者等への意識啓発などへ支援を行い、より選ばれる産地となるように取り組んでいく。

お国自慢の会



中芸地区農漁村女性グループ研究会は、地域農産物と加工グループの生産物を消費拡大につなげるために、各グループで消費者に PR しやすい料理を持ち寄り試食、講評をおこなった。ナスでは、土佐鷹の特長がしやすい即席漬け、ユズ味噌では、里芋の転がしに利用する等、それぞれの利用しやすい形を説明し自慢しあう楽しい会となった。

また、株式会社北川村ゆず王国の代表者に、加工品を商品化するまでの注意点について講演を聞き今後の活動の参考となった。

今後もグループ活動が実のある活動になるように支援をしていく。

普及推進協議会



平成 20 年度普及推進協議会を農家代表 7 名と JA、園芸連、市町村に集ってもらい 3 月 19 日に開催した。協議内容は平成 20 年度普及指導活動の実績と 21 年度活動の方向（案）を報告し、協議をおこなった。

主な協議内容は産地づくりの取り組みが多く、JA から、いままでは地区の自主性にまかせていたが、支所、本所が一緒になった活動となってきた等意見がでた。来年度の活動のテーマとして引き続き議論が必要である。

土着天敵温存ハウス 3 年目の取り組みがスタート



温存ハウスの作付計画を協議

3 月 16 日に土着天敵温存ハウスグループのリーダ的存在である「夏越グループ」の会が開催された（会員：18 人参加）。

まず、「天敵栽培苗」について種苗業者からの説明を聞き、育苗中に使用される農薬の問題点等について意見交換した後、温存ハウスの運営や作付計画について話し合った。振興センターからは、土着天敵の主流となりつつあるタバコカスミカメのバンカーであるゴマについて、昨年の温存ハウスでの栽培経過と今年の作付計画（案）を説明し、「スタート用」「つなぎ用」「採取用」の 3 段階の作付に取り組むことが決まった。また、クロヒョウタンカスミカメの利用を希望する農家も多いことから、2 種類の天敵に適したバンカーを中心とした作付計画が決まった。

安芸地域には「夏越グループ」の取り組みを参考にする農家やグループが多く、今後も地域への情報発信や他のグループとの交流が期待される。